

川辺に面した石積の見本市



全長361.2m（夕顔瀬橋から戎屋履物店まで。夕顔瀬橋の橋台に隣接した護岸工事を含む）。地番からの高さは3.3〜5.5mである。石垣の高さは一定していない。これらは、これらの石垣が統一して造られたのではなく、土地所有者がそれぞれ施工したことを物語っており、石積の見本市的な様相を呈している。

花崗岩の間知石（けんちいし）の谷積、不規則な石の乱積と玉石の布積、乱積と、三種類の工法が見られる。建築時期は明治期が主とされるが、花崗岩の乱積みみ部は江戸後期と言われている。また、水面を利用するための石段が14か所に設けられていたが数が減っている。

（もりけん本スーパerver.2より）

